

《教育長メッセージ 第46号》

『いきものがかり』

8月の27日、28日と「超いきものまつり2016地元でSHOW!!～海老名でしょ～」と題した「いきものがかり」のライブコンサートが、海老名運動公園陸上競技場で行われました。

私は、そのステージに杉久保小学校の子どもたちが参加するというので、両日、杉久保小学校の子どもたちの出番が終わるまでコンサートを見させていただきました。

「いきものがかり」の3人は、全国的に多くのファンがいて、多くの人たちに愛されていることから、私があれこれコメントするのは、お門違いではありますが、私なりに感じたことを、みなさんにお伝えしたいと思います。



初日、はじまりの吉岡さんの「ありがとう～♪」の歌声が衝撃的で、私の体に電気が走り、一瞬にして引き込まれました。心が動きました。海老名は2日間とも雨が落ちてきましたが、その中での3人の言葉や動き、音楽には、3人の思いやりや真心が表れていました。多くの人を惹きつける魅力を私なりに知ることができました。

杉久保小学校は、水野さん、山下さんの母校ということで、子どもたちへの出演依頼がありました。教育委員会として出演依頼を受けました。その話の中で、「いきものがかり」というグループ名が物語るように、2人の原点がそこにあり、それを大切にしていることがわかりました。なんだかとてもうれしく感じました。その日のうちに学校に説明に行きました。学校も同じように感じ、「いきものがかり」の3人のためにということでした。子どもたちのリハーサルでは、3人が全員と記念写真を撮り、ひとりひとりの子どもとハイタッチしたということです。子どもたちは感激していました。3人の素直な思いやりをあらためて感じました。2万人以上に観客の前に立った奇跡のような時間は、子どもたちの、この夏の素敵な思い出になったことでしょう。

2日目、私は、3人の演奏に揺れながらも、まわりを見る余裕？がありました。ファンの方は、若い人が圧倒的でしたが、家族連れの方が多く見られました。高齢の方もいました。障がいのある方も合理的な配慮のもと、多くの方が来られていました。

涙を流しながらステージに目をやるお母さん、お父さんのひざの上で笑顔の子ども、お気に入りの曲に車イスごとリズムを取る青年、立ち上がったままの観客は、3人の動きに合わせて方向を変え、雨などお構いなしで

会場が「ひとつ」になっていました。

「いきものがかり」が創り出す音楽が、ひとりひとりの観客のみなさんが、日々、生きている生活に深く染み込んでいるんだなあと思いました。

私は、フォーク世代で、拓郎や陽水やかぐや姫などに夢中でした。正直、「いきものがかり」の曲は、あまり知りませんでした。この2日間で、ファンのひとりになりました。

ひとりのファンとして、曲を生み出し、活動を続けることは得る喜び以上に大変なことでしょう。健康に気をつけて、休みをしっかりと取りながら、これからも、やさしく、明るく楽しい音楽を届けてほしいと思うのです。

「いきものがかり」は、海老名の、日本の「たからもの」です。

次回は、「話し合うこと」について、自分の考えを述べてみたいと思います。